

21世紀COEプログラム 平成16年度採択拠点中間評価結果

機関名	奈良女子大学	拠点番号	K20
申請分野	K<革新的な学術分野>		
拠点プログラム名称 (英訳名)	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点 (COE for Research on formation and characteristics of Ancient Japan)		
研究分野及びキーワード	<研究分野:人文学> (古代日本) (古代都市) (大和) (日本語) (GIS)		
専攻等名	人間文化研究科 <u>比較文化学専攻</u> ・社会生活環境学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 館野 和己 他26名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成18年4月現在）を抜粋

<本拠点がカバーする学問分野について>

考古学・歴史学のみならず、地理学・国語学・国文学・建築史学・修景学・美術史学・生活文化史学など、古代日本に関わる諸分野の研究者が参加するものである。

<本拠点の目的>

本学の将来構想である東アジアを中心としたシルクロード地域との学術研究交流及び国際貢献という目標の一環として、奈良盆地を中心に、古代都市に照準を合わせ、上記諸学問分野を統合し、古代日本の形成過程とその特質を、東アジア史～ユーラシア史を中心とした世界史的視野の中で解明し、またそこで得られた研究成果や諸情報を集積・発信する役割をも果たす研究教育拠点となることを目指す。

<計画・当初目的に対する進捗状況等>

現在は、成果の統合を見据えつつ、主に分野ごとに研究を進めている段階である。たとえば古代都市・都城の形成や特質、あるいは古代日本語の表記や歌を、中国・韓国・ベトナム・アメリカをはじめとする国外や、文化財関係諸機関・大学の研究者をも交えて、積極的に検討している。さらに後世から見た古代史像の研究や、GISを利用したデータベース構築作業も進めており、ほぼ順調に進捗している。

<本拠点の特色>

多くの関係学問分野を統合して、古代日本の形成過程とその特質を、全体的に解明しようとすることに特色がある。そのため近隣の文化財関係諸機関をはじめ、国内外の研究機関・研究者との交流を盛んに行っている。得られた成果は電子メディア化し、GISなどで情報発信して、専門家のみならず、広く市民の利用に供することも計画している。

<本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

多くの関係学問分野を統合して、古代日本の形成過程とその特質を、全体的に解明しようとすることに特色がある。そのため近隣の文化財関係諸機関をはじめ、国内外の研究機関・研究者との交流を盛んに行っている。得られた成果は電子メディア化し、GISなどで情報発信して、専門家のみならず、広く市民の利用に供することも計画している。

<本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果>

諸学問分野ごとの成果はもちろん、それらを統合して、古代日本形成の全体像が具体的に明らかになるであろう。さらに研究成果の積極的発信や、学外との研究交流・共同研究の蓄積を通じて、本拠点が研究ネットワークの中心となることが期待できる。また古代に関わる総合的・学際的・重層的な知識・研究法などを身につけた学生・若手研究者が育成される。

<本拠点における学術的・社会的意義等>

考古学・歴史学などの諸学問分野の共同研究を、国内外の諸研究機関・研究者と積極的な交流をもちつつ推進することで、古代日本の形成過程とその特質を、国際的視野をもって総合的に解明することができる。さらに、GISを利用したデータベース構築や情報発信・関係自治体と連携した諸活動などにより、学校教育や社会教育の場における古代史・古代都市に対する理解を深め、社会連携・地域貢献の拠点ともなりうる。

◇21世紀COEプログラム委員会における所見

(総括評価)

当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

現在までの進捗状況は、研究活動面では、GISデータベース作成など、古代都市空間の総合的研究拠点の形成という初期の目的にはほぼ一致し、高く評価できる。また、人材育成面では大学院生への教育も進められており、教育効果が上がっている状況がうかがえる。比較的小規模大学にあって、限定されたスタッフという環境の中で、それぞれの専門性を複合的に、かつ有機的に組織した点も評価できる。

研究活動面において、関係論文は多数発表され、精力的な研究が進められていることは評価できるが、論文内容は個別研究が中心で、目標の総合的な研究からの視点にやや欠けており、古代都城論に関する注目すべき研究業績も少ない。今後、GISデータベース作成に終わることなく、参加者の活発な共同研究とその公表が必要である。

また、他研究機関との連携は、あまり進捗していないため、今後、本研究課題を進める上で、学内だけにとどまらない隣接研究分野との有機的かつ密接な連関と研究交換の実施や、総合的研究における専門分野ごとの協力体制の構築が望まれる。

さらに、対外的な情報発信については、従来型の国際研究集会が散発的になされているが、今後は、英文論文の出版公表を活発に行うことなども必要であり、これらの諸点については一層の努力が望まれる。